

深緑にはえる天女花、妖艶のショウキラン

近畿の最高峰——弥山～八経～明星の道を歩く

7月12日オオヤマレンゲ山の会第255回例会の大峰山系・八経ヶ岳・明星ヶ岳登山が行われた。主たる目的は特別天然記念物オオヤマレンゲの花(写真右)に会うこと。

前夜の天気予報は70%の降水確率、それにもかかわらず参加者11人は出発時刻前に全員集まった。



聖宝(じょうぼう)の宿跡



R309を南下し、天川村の熊渡に車一台を配置して行者選トンネル西口に8:00に到着。早速登山開始。

曇天ながら、雨の気配なし。遠景の山や森は薄く雲がかかって、暗い感じを免れないが、大木、巨樹の間を縫って登る道はむしろ明るく、時折吹き抜ける風が汗ばんだ肌に心地よい。木々が放つフィトンチッドの働きなのだろうか、深山を訪れた者のみが体感できる爽快感の中を歩く。

足元にはコナスビ(サクラソウ科オカトラノオ属、二上山にも咲いている)、オトギリソウ(オトギリソウ科オトギリソウ属・写真下中央)、カラムツソウ(キンポウゲ科カラムツソウ属・写真下右)などの花々が咲き、開けたところではバイケイソウ(ユリ科シュロソウ属・写真左)が咲き誇っている。



ショウキラン(鍾馗蘭・ラン科ショウキラン属)が現れた。この植物もギンリョウソウと同じく葉緑体をもたず土中の菌類から栄養をもらって花を咲かせる。名は、端午の節句に飾る武者人形の顔に花の姿を見立ててつけられたと言う。薄暗い樹林下で妖しく咲くピンクの花には似つかわしくない名だと思うがどうだろう。

弥山小屋から八経ヶ岳に向かう途中で厳重なフェンスがあり、オオヤマレンゲなどが鹿の食害から守られている。深山に人工のフェンスなど興奮めもいいところだが、こうしなければオオヤマレンゲを守れないのだから、なんとも哀しい。

天女花とも呼ばれるオオヤマレンゲ、純白の花、光沢をもつ深緑の葉、漂う香気、「やっぱり来て良かった」。自宅の近所でも園芸種のこの花を見たことはあるが、何とんでもこの山の、この群落で、この花を見なければならぬ。これも又3時間余の険路を辿った者だけに与えられる至上の贅沢と言えるだろう。

近畿最高峰の八経ヶ岳から明星ヶ岳へと歩き、頂仙岳の西側を巻いて熊渡分岐から白川八丁入口へと一気に下った。清水したたる苔のじゅうたん、巨樹が林立するも明るく、広々としたブナ林、その下のツルアリドオシの群落などを楽しみながら下ると、川迫川で若者たちが泳いでいた。寒そう！。

写真右 苔のじゅうたん



ショウキラン



オオヤマレンゲ



ニ上山だより



写真上左からノギラン、アケビの実、タマゴタケ、ナツフジ、下ヨメナ